

ARIBニュース744号 (2010.07.06)

## 会長就任にあたって



社団法人 電波産業会  
会長 中鉢 良治

会員の皆様には平素より当会の活動に対し、格段のご支援とご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。

私は、去る6月15日に開催されました第49回理事会におきまして選任され、当会の会長に就任いたしました。当会の諸事業の推進を通して電波産業の発展に多大なるご尽力をいただきました川村前会長を引き継ぎ、微力ではございますが当会及び電波産業の更なる発展に尽くしてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

当会は、通信・放送分野の事業者、製造業者、利用者等から構成され、総務省、関係団体並びに会員の皆様のご支援、ご協力に支えられ、電波を中心とする情報通信産業の発展と高度情報通信ネットワーク社会の実現に取り組んでまいりました。

現在、我が国の通信・放送分野では、新たな成長戦略ビジョンが発表され、あらゆる分野におけるICTの徹底利活用を促進する「ICT維新ビジョン2.0の推進」などを基本コンセプトに、持続的な経済成長の実現が期待されています。また、政府による電波有効利用政策の円滑な推進とともに、電波技術の開発、実用化、電波の有効活用を推進していくことが重要であります。

通信分野におきましては、携帯電話が第3世代から3.9世代、さらには第4世代(IMT-Advanced)へと確実に発展しつつあり、またブロードバンドワイヤレスアクセスにおいてもWiMAX、XGPのエリア拡大など、サービスの充実が図られています。さらに、高度道路交通システム(ITS)、公共ブロードバンド、電子タグ等における電波利用の拡大など、無線システムの高度化が進展しています。

放送分野におきましては、2011年7月に予定されている地上デジタル放送への完全移行に向け、デジタル放送ネットワークの充実への対応が最終局面を迎えています。また、次世代の放送サービスを見据え、モバイル向けマルチメディア放送、立体テレビ、さらにはスーパーハイビジョン等への議論、検討などの取り組みも充実が図られています。

ICT国際競争力強化の取り組みの一環としては、我が国の地上デジタル放送方

式(ISDB-T)の国際普及活動が、南米諸国やアジア地区等において積極的に展開されており、6月末には日本方式の採用国が9カ国となりました。また、ワイヤレス分野においても我が国で培われた各種の無線通信技術の国際普及活動が推進されています。

このような動向を踏まえて当会は、次世代の新しいサービスの円滑な導入並びに実用化を行っていくために国際的な視点に立って、通信・放送分野の調査研究、研究開発、標準化等に取り組んでまいります。また、電波利用に関する正しい理解を高めるとともに、電波を安心してご利用いただくために、電磁波が生体に及ぼす影響、あるいは無線機器が各種機器に及ぼす影響等に関する調査研究も充実させてまいります。さらには、電波の利用に関するコンサルティング、普及・啓発、情報提供、関連外国機関との連絡・協力、特定周波数変更対策なども着実に実施してまいります。

このように当会は今後とも、内外関連機関と連携を図りつつ、電波産業の発展のため鋭意努力してまいりたいと存じますので、会員の皆様の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

## ARIBの動き

### 周波数資源開発シンポジウム2010を開催

「近距離ブロードバンドワイヤレスの技術動向」をテーマとした「周波数資源開発シンポジウム2010」を、社団法人電波産業会及び独立行政法人情報通信研究機構(NICT)の共催、総務省の後援により、6月30日、コクヨホールにおいて開催しました。

今回は、昨年シンポジウムテーマ「家庭内ワイヤレススーパーブロードバンド」をさらに発展・拡張させた「近距離ブロードバンドワイヤレスの技術」というシンポジウムテーマを設定しました。この中で、生体内外の高速度ワイヤレス通信に使われるボディエリアネットワーク(BAN: Body Area Network)、気候温暖化対策で急速に期待が高まっているスマートグリッドで使用されるセンサーネットワーク(SUN: Smart Utility Networks)等の技術動向や標準化動向などについて、欧米の標準化団体の役職者や国内専門家による講演を企画しました。

シンポジウムでは、情報通信研究機構の熊谷博理事が開会挨拶を行い、総務省総合通信基盤局電波部長の吉田靖様から来賓ご挨拶をいただいた後、総務省総合通信基盤局電波部電波政策課企画官の鳥越祐之様からの基調講演として「日本における電波政策の動向」、米国IEEEのIEEE 802.15 WG議長のBob Heile博士から「IEEE802.15における標準化動向」、電波産業会研究開発本部次長の小川博世から「ITU-Rでの近距離無線通信の標準化動向」、ETSI標準化プロジェクトのMichael Sharpe博士から「ETSIでの近距離ワイヤレスの技術動向」、IEEE802.15.4g副議長を務める情報通信研究機構の原田博司様から

「SUN無線通信技術の研究・標準化動向」、東京電機大学の小林岳彦教授から「UWB通信システムの高度化について」、それぞれの演題で示唆に富んだ有意義な講演をいただき、当会の若尾正義専務理事が閉会の挨拶を行い、シン

ポジウムを閉じました。

当日は300名を越える方々にご来場いただき、大盛況のうちに終了いたしました。



周波数資源開発シンポジウム2010の様子と  
情報通信研究機構理事 熊谷博様 (左)、総務省総合通信基盤局 電波部長 吉田靖  
様 (右)



総務省総合通信基盤局  
電波政策課企画官  
鳥越祐之様



米国IEEE  
IEEE802.15WG議長  
Dr.Bob Heile



電波産業会  
研究開発本部次長  
小川博世



ETSI標準化プロジェクト  
Vice President  
Dr.Michael Sharpe



情報通信研究機構  
IEEE802.15.4g副議長  
原田博司様



東京電機大学  
教授 小林岳彦様

## マルチメディア移動アクセスフォーラム（MMACフォーラム）

### 平成22年度定期総会を開催

6月17日に明治記念館「千歳の間」において、マルチメディア移動アクセスフォーラム（MMACフォーラム、会長：齊藤忠夫東京大学名誉教授、事務局：社団法人電波産業会）の平成22年度定期総会を開催しました。

齊藤会長の開会挨拶に続いて、総務省の竹内芳明移動通信課長から、「MMACフォーラムは、UWB等の実証実験等の活動に大いに貢献していると理解している。」との来賓挨拶がありました。

その後、総会の議事に入り、平成21年度の事業報告及び収支決算、年会費に係る特例措置、平成22年度の事業計画及び収支予算、並びに役員の選任について審議が行われ、全て提案のとおり決議されました。



MMACフォーラム平成22年度定期総会の様子と  
齊藤忠夫会長（左）、竹内芳明移動通信課長（右）